

複合化

- ・どんな機能を複合すれば常に稼働し市民に利用してもらえるかの視点が重要
- ・専用の展示室というよりは会議室等と兼用のほうが現実的か
- ・多目的が無目的に変わってはいけない。コンセプトを持つことが大事
- ・会議用の会議室ではなくて、演出準備と会議両方使える部屋がほしい
- ・複合化で新しい価値が施設に付加されることで、稼働率がどう変わるか
- ・単に集約化して一つの施設に詰めるのではなく、機能の相乗効果が生まれるよう、それぞれの役割を再定義することが重要
- ・コンベンションと文化芸術のバランスをどう設定するか
- ・機能を何でも詰め込むことで多目的が無目的になってしまう可能性がある
- ・市内の既存施設や、周辺市町村も含めた役割分担を考える必要がある

コンベンション

- ・全国規模の大会やコンベンションを実施すれば、地域の活性化につながる
- ・3,000人規模のコンベンションが開催できる機能があると良い
- ・旭川市の状況を考えると、コンベンション的な機能を複合することが現実的
- ・コンベンション機能は外せない要素である

予算

- ・イニシャルコストは、1,500席の大ホール単独施設で100億円程度、1,800~2,000席の大ホール+会議室等で130~150億円程度、アイデアを全て実現しようとする200億円以上になると見込まれる
- ・可動式のホールはイニシャルコストとランニングコストの両方でお金がかかり、音響的にも有利にはならない
- ・飲食機能を入れる際に、収支を合わせるための工夫が必要になる

ついで利用

- ・行ったついでに何か見れるとか、他にも何かできるような多用途であるといい
- ・何かのついでに立ち寄れるような施設であってほしい

相互性

- ・旭川で芸術分野に従事する有識者の方々と相互につなげる文化会館の在り方が必要
- ・文化会館が子どもたちと芸術家をつなぐ場所になってほしい

インクルーシブ

- ・年齢や性別、身体能力によらず誰でも立ち寄りやすい居場所とすることが大事
- ・従来のアプローチを打破し、視覚・聴覚障害のある方が美術・絵画・彫刻を楽しめるデザイン
- ・オープンスペースが狭い施設では、ホールの外だと圧迫感がある
- ・車椅子でも使いやすい駐車場やトイレが良い
- ・子どもたちにとって文化会館が馴染みのあるものであってほしい
- ・普段からホールを利用している人だけでなく、全ての人々が気軽に入りやすい透明性のある外観が好ましい

日常的な利用

- ・おのずと人が集まるようなエントランス広場
- ・図書館やギャラリー等の日常的に使う機能を複合することで使用率を上げる
- ・飲食できる場所があるのは、人が集まってくる大きな要素の一つだと思う
- ・飲食・おしゃべりが可能など、居心地良い場所づくりが市民との距離を縮める
- ・常に人が来るような機能を同居させることで、場所やイベントの存在を知りきっかけを生み出す

余白空間

- ・ホールから出た時の圧迫感が苦手なので、ホール以外の公共スペースを広くつくってほしい
- ・メイン機能以外の空間を広くとることが最近の文化施設の傾向である
- ・何かのついでに立ち寄れるような施設であってほしい

市民参加

- ・デザインコンペを行うなど市民の意見を形に取り入れることで、市民の理解が得られる
- ・市民中心の施設であってほしい。幅広い文化活動が発表できて交流できるような場であってほしい

積層型

- ・積層する場合、上下階の相互交流を保ちつつ、用途で分けられるような工夫が必要
- ・現庁舎跡地に高層のホールを建てて、席数や駐車数を確保することは可能である
- ・ホールを高層化することで、道路の振動やサイレンなどは伝わりにくくなる
- ・積層型は上下階でイベントを明確に分けられるメリットと分断してしまうというデメリットがある
- ・水戸市民会館のようにホールの多層化ができれば良い
- ・積層型は混雑時に狭隘さを感じるなので、安全確保に留意する必要がある

アイデンティティ

- ・私たちの市民文化ホールはどんな考え方で何を指してどこに個性を持って考えていくのか
- ・旭川市のアイデンティティとなるようなホール
- ・子供たちが舞台に立つことを誇りやモチベーションに感じられるような施設であるといい
- ・木工が有名であるため、木を生かした建物にすることで、旭川らしさにつながると思う

ホール機能

- ・演奏家としてこのホールで演奏・レコーディングしたいと思える音響設備
- ・現状の稼働率は音楽の割合が高いので、良い音楽を良い環境で聴けることが大事
- ・客席数を可変式にするなど、現在公会堂が担う中ホール機能の継承も考える
- ・音楽ホールと会議室の機能は分ける必要がある
- ・中ホールや小ホールは避難所としても使えるといい
- ・世界レベルのアーティストを誘致できる程度のスペックがあっても良いと思う
- ・舞台転換のしやすさ、楽屋やバックヤードの使いやすさも考えてほしい

ライブラリー・ギャラリー

- ・展示室で展示のない時の利活用を考えたい ・展示室は最低でも今の広さが必要
- ・図書館やギャラリー等の日常的に使う機能を複合することで使用率を上げる
- ・個展やグループ展が可能な中規模の展示会場が旭川市にはないことを踏まえ、展示機能の規模を考える必要がある ・コンベンション等にも使いやすい部屋の構造・配置であるといい
- ・(hitaruのように) 図書館、飲食、椅子など様々な機能があり、目的がある人もない人も利用できる施設であるといい
- ・インターネット等により表現の機会と場所の選択肢が増えている時代であり、公共施設の役割や支援の仕方もバージョンアップしていく必要がある

シンボル性

- ・ランドマークになるような施設
- ・(エスコフィールドのような) 建物自体に魅力がある施設

立地・敷地

- ・瞬間的な人の動きを吸収できるような、駐車場や広場など、土地のゆとりをどれだけ確保できるかがポイント
- ・敷地の使い方なども考えながら議論する必要がある
- ・近くで消防車のサイレンが鳴ることは、ホールを建てる際に懸念すべきである

アクセシビリティ

- ・高齢化に伴い、アクセシビリティがますます求められる
- ・子どもを持つ親としては、屋外スペースにゆとりがあると入りやすい

管轄・所管

- ・施設を管轄する行政主体が別(市と道など)の場合、同じ建物に集約することは難しい

屋内型パブリックスペース

- ・北海道では冬季間、屋外スペースが機能しなくなる
- ・屋内型広場があれば冬季に室内で待つことができる

道北の中心としての施設

- ・道北における文化の大きな基盤
- ・3,000人規模のコンベンションに対応できる宿泊施設を有しているのは北海道では札幌と旭川だけである
- ・北海道の第2の中心として幅広い芸術に対応できるような施設
- ・文化芸術を担っていく道北エリアの拠点でありたい

文化醸成

- ・旭川市文化芸術振興条例を吟味し、新施設との整合性をとる必要があるのでは
- ・この建物があったからこそ旭川の文化が深まったと思えるような施設
- ・音楽、芸術の足がかりとなるような施設
- ・旭川市は芸術のレベルが高く、それを大切に育てていくことが重要であると考えるので、コンセプトとして「文化芸術」を推したい